

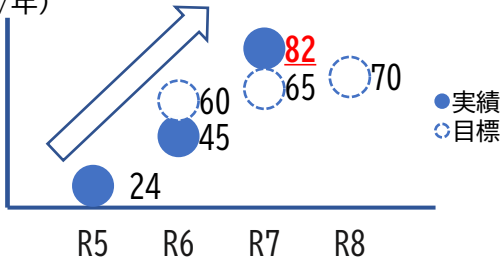
施策1 包括的相談支援体制の充実【重点】

取組1 相談支援・ケアマネジメント体制の充実

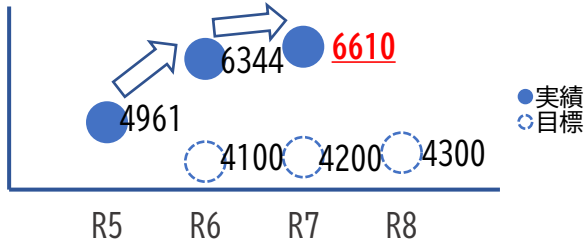
取組2 多分野の協働による相談支援の充実

評価指標

基幹相談支援センターによる地域の相談支援従事者への支援件数(件/年)



地域生活支援拠点が相談対応で関係機関と協働した件数(件/年)



主な事業の評価

	事業名(担当課)	令和7年度 実績・課題
取組1	基幹相談支援センターの機能強化(障害福祉課)	(実績) 目標として設定した基幹相談支援センターによる地域の相談支援従事者への支援件数については、地域の相談支援専門員が抱えるケースの個別支援会議への参加や相談支援専門員への専門的指導や個別事案への助言等により目標を達成した。 (課題) 基幹相談支援センターに求められる地域の相談支援体制の強化の取組について、現在行っている地域でのグループスーパービジョン実施の他に、地域の相談支援事業者の人材育成や支援の質の更なる向上のために新たな取組が必要である。
	障害者相談支援・コーディネート事業(障害福祉課)	(実績) 委託相談支援事業所による相談対応件数 15,824件 (課題) コロナ禍以後、相談件数の増加、特にメンタルヘルスに関する相談が目立ち、併せて困難ケースの対応も増えており、委託相談員の負担増加が懸念される。
取組2	地域生活支援拠点における地区別研修(地域生活支援拠点の「地域の体制づくり」機能)(障害福祉課)	(実績) 地域別研修の開催により、支援者の資質向上に加え、地域の関係機関の連携強化を図った。 地区別研修の開催状況: <<あおば>>13回、<<たんぽぽ>>6回、<<しょうなん>>15回、<<ぶるーむの風>>2回 (課題) 複合的課題を抱えるご家庭の増加により、これまでよりも幅広い関係機関の連携が必要である。
	「福祉の総合相談窓口」の設置(福祉政策課)	(実績) 新規相談者数: 864名 継続相談者数: 1,427名 (課題) 新規相談者数は昨年度比で減少したものの、例年並みの件数であり、継続相談者数も同様であった。 1人が複数の課題を抱えていることや世帯員がそれぞれ課題を抱えていることが散見されるため、早期に課題解決に向けた取組ができるよう、支援者間の連携を密にとる。

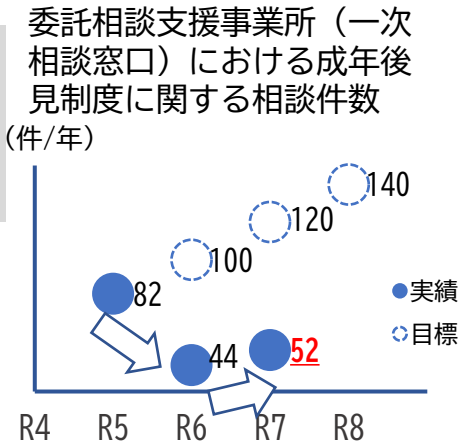
進捗評価

進捗評価			取組1は、継続的に実施してきた基幹相談支援センターの機能強化が実を結び、実績値が目標値を上回る結果となった。なお、取組2については目標値を大幅に上回っており、多分野における協働の進捗が数字に表れる結果となった。さらなる相談支援体制の充実に向けて、地区別研修への参画促進や、相談員への支援の充実を図る。
良好	概ね良好	課題あり	

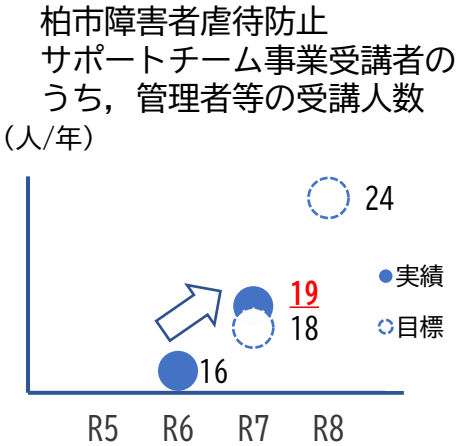
施策2 権利擁護体制の充実

取組1 成年後見制度の利用促進

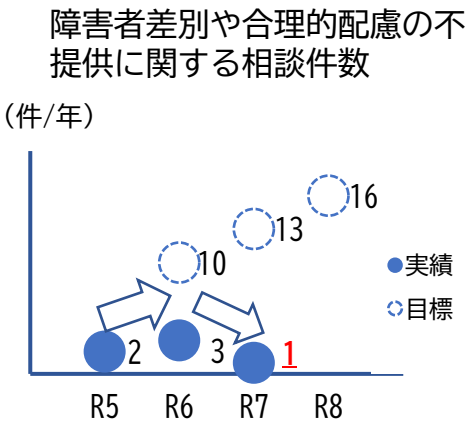
評価指標



取組2 虐待の防止と早期発見・迅速な対応



取組3 障害者差別の解消及び理解啓発



主な事業の評価

	事業名（担当課）	令和7年度 実績・課題
取組1	成年後見一次相談窓口の周知（障害福祉課）	（実績） 成年後見一次相談の件数 《あおば》17件，《たんぽぽ》7件，《しょうなん》2件，《ぶるーむの風》26件
		（課題）成年後見制度のより一層の制度理解を深めていくことが必要であるため、相談先の周知の強化を図る。
取組2	柏市障害者虐待防止サポートチーム事業（障害福祉課）	（実績） ・柏市障害者虐待防止サポートチーム事業を計9回開催 ・13事業所（児童発達支援、放課後等デイサービス、就労施設等）から延べ211名の出席
		（課題）今後は引き続き管理者・サービス管理責任者の受講人数増加を図るとともに、研修内容の更なる質の向上に努める。
取組3	広報誌やホームページ等による啓発・周知（障害福祉課）	（実績） ・以下についてホームページによる周知を行った。 ①障害者差別解消法における合理的配慮の提供の義務化 ②法改正のリーフレットを掲載 ③障害者差別に関する相談窓口「つなぐ窓口」の案内 ・柏市障害者差別解消支援地域協議会を年2回開催し、その報告をホームページ上で行った。
		（課題）差別解消の相談については、令和7年度は1件にとどまっており、より一層の周知が必要。

進捗評価

進捗評価			取組1及び3は、目標値を下回る結果となった。権利擁護に係る制度や相談窓口の認知度不足が考えられることから、より一層の周知と理解啓発に努める。 取組2は目標値を上回り、着実な増加が見られた。引き続き管理者の受講件数増加を図るとともに、サービス管理責任者のさらなる参加を促進する。
良好	概ね良好	課題あり	

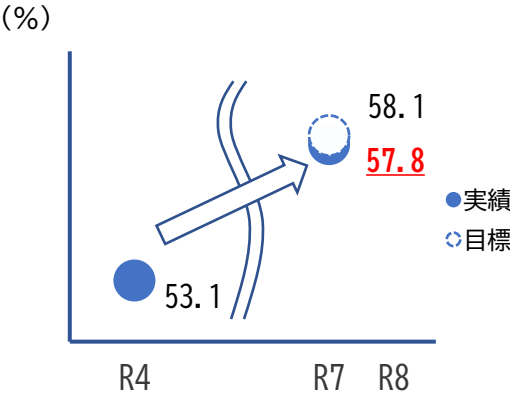
施策3 情報アクセシビリティの充実

取組1 情報の提供と利活用の充実

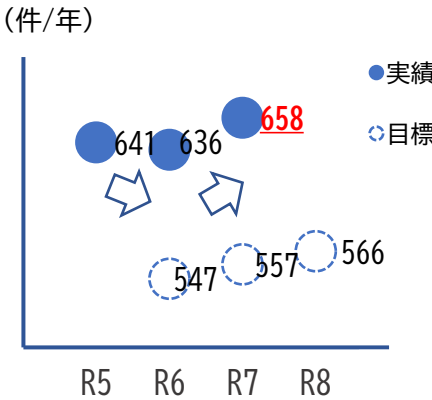
取組2 意思疎通支援の充実

評価指標

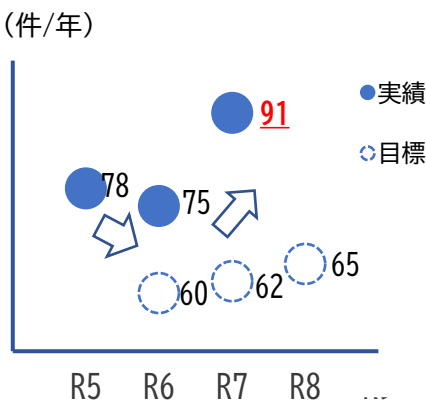
市が発信する媒体から障害福祉に関する情報を入手する障害者の割合
(市民アンケートより)



手話通訳者の利用件数



要約筆記者の利用件数



主な事業の評価

	事業名 (担当課)	令和7年度 実績・課題
取組1	広報誌・ホームページ・SNS等による多様な情報発信 (◎障害福祉課) (広報広聴課)	(実績) 障害福祉に関する情報を集約化した「障害福祉のしおり」は継続して発行し、市民・事業者とも一定のニーズが見られた。その他、広報誌やホームページでの情報発信やLINEを活用したプッシュ型通知を開始した。 (課題) 業務の効率化とあわせて、情報アクセシビリティに配慮した情報発信や、発信する情報の整理が必要。
取組2	意思疎通支援者の派遣 (障害福祉課)	(実績) 失語症者向け意思疎通支援者派遣事業を開始したが、実績はなし。手話通訳者・要約筆記者の派遣件数はいずれも増加。ここ数年増加傾向が続くものの、コロナ禍以前の件数には回復していないことから、必要となる場面が変わっていることが想定される。 (課題) 必要な場面で利用できるよう、引き続き制度の周知に努めるとともに、庁内に向けても適切な意思疎通支援がなされるような啓発を行う。 失語症者向け意思疎通支援者派遣事業については実績もなく、ニーズの把握もままならないことから、千葉県による県下統一事業とならないか働きかけが必要。

進捗評価

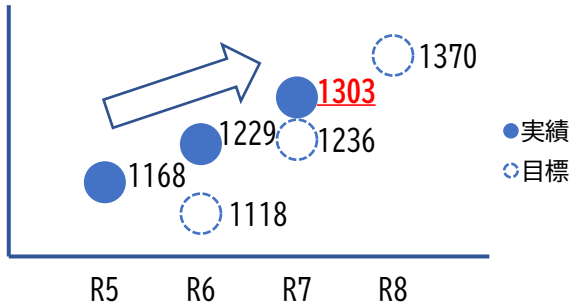
進捗評価			取組1は、わずかに実績値が目標値に届かなかったものの、令和4年度と比較すると5%程度実績値が増加した。プッシュ型通知等により、電子媒体所持者に対する情報発信は強化されたが、高齢等の理由により電子媒体に馴染みがない障害者に対する周知方法は引き続き検討していく必要がある。 取組2については、実績値がいずれも増加し、目標値を上回る結果となった。引き続き制度の周知を行い、さらなる利用件数の増加を図るとともに、本市において実績がない失語症向け意思疎通支援者派遣事業の方向性について、県等と調整を図っていく。
◎ 良好	○ 概ね良好	△ 課題あり	

施策1 暮らしを支える基盤整備【重点】

取組1 地域生活を支える場の充実

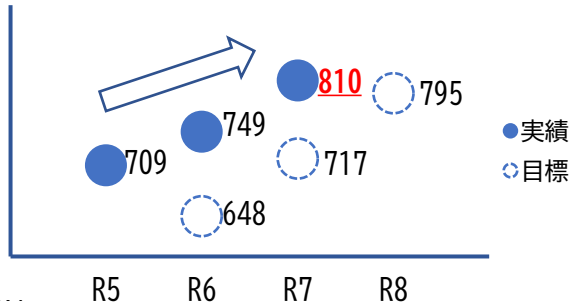
評価指標

福祉サービスを利用しながら地域で暮らしている障害者の人数
(人/月)



取組2 高齢障害・重度障害等にも対応できる環境の整備

左記人数のうち、高齢障害者もしくは重度障害者の人数
(人/月)



主な事業の評価

	事業名（担当課）	令和7年度 実績・課題
取組1	地域生活支援拠点の設置 （障害福祉課）	（実績）令和7年度も地域生活支援拠点あおば、地域生活支援拠点たんぼぼ、地域生活支援拠点しょうなん、地域生活支援拠点ぶるーむの風の4つの拠点を設置・運営。
		（課題）各拠点の設置から5年以上が経過し、次のステップとして、緊急対応時及び「体験の場」の好事例の集約に努める。
取組1	柏市地域生活支援拠点運営協議会の開催 （障害福祉課）	（実績）年2回柏市地域生活支援拠点運営協議会を開催し、機能の評価・検討、更に各地域の課題共有を行った。 ・第1回令和7年6月23日 ・第2回令和8年1月19日
		（課題）地域生活支援拠点に求められる機能、体験の場の提供の実績が四拠点共通で少ないことから、今後件数増加に向け拠点コーディネーターを中心とした更なる活動の推進が必要である。
取組2	障害福祉サービス施設等改造等補助金 （障害福祉課）	（実績）1事業所の新設工事に対し、補助を実施した。
		（課題）重度障害者等を受け入れる事業所の拡大幅については、今後の課題である。
取組2	共同生活援助（グループホーム）の整備 （障害福祉課）	（実績）令和6年度の公募や事前調査から、共同生活支援の新規参入、施設改修が見込まれなかったため、令和7年度は事業実施せず。
		（課題）上記改造等補助金の効果的な活用など、重度障害者を受け入れる事業所の整備に係る手法の検討は今後の課題である。

進捗評価

進捗評価			取組1については、地域生活支援拠点4箇所の設置から5年以上経過し、支援ネットワークの深化が伺える。次のステップとして、各拠点の好事例の集約及び横展開を図りたい。一方、取組2は目標値は上回っているものの、高齢・重度障害者が地域生活を希望した際、地域に移行できる体制が十分かは検討が必要である。
良好	概ね良好	課題あり	

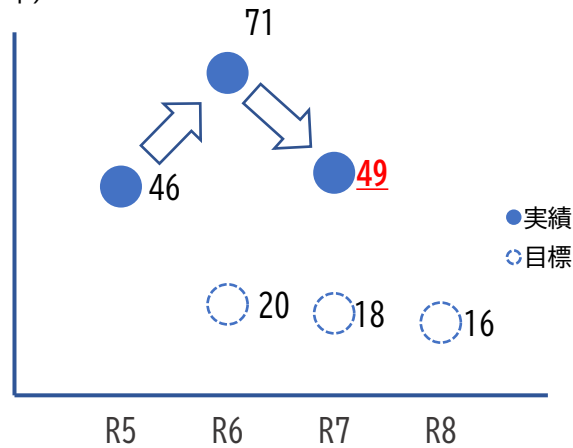
施策2 暮らしを支えるサービスの充実

取組1 在宅生活を支援するサービスの充実

評価指標

市内事業所を対象とした実地指導における文書指摘の件数

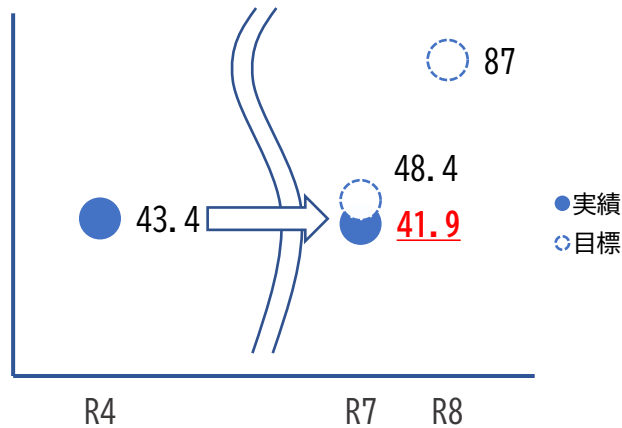
(件/年)



取組2 日中活動や医療等のサービスの充実

サービスを利用する上で困ったことが特にない障害者の割合

(%) (市民アンケートより)



主な事業の評価

	事業名（担当課）	令和7年度 実績・課題
取組1	在宅福祉サービスの提供 （障害福祉課）	（実績） 在宅福祉サービスの利用状況 ≪寝具乾燥消毒≫5人， ≪配食サービス≫4人， ≪理髪費用助成≫6人， ≪紙おむつ給付≫104人
		（課題）紙おむつ給付事業の利用者は増加傾向にあるものの， その他の事業については横ばい状況であり， より一層の周知 が必要である。
取組2	自立支援医療 （精神通院・ 育成医療・ 更生医療） （障害福祉課）	（実績） ・ 自立支援医療の受給状況(実人数) 精神通院：7,582 育成医療：7 更生医療：570 ・ LINEによる更新通知サービスを開始。登録者数：809
		（課題） 郵送による申請が増加する中で，書類不備で追加書類の提出 が必要となる方も多く， 期限までに提出がない場合は受付で きず返送するなど， 受付事務に時間を要するようになった。 提出時の書類不備を減らすため， 必要書類の周知が課題である。

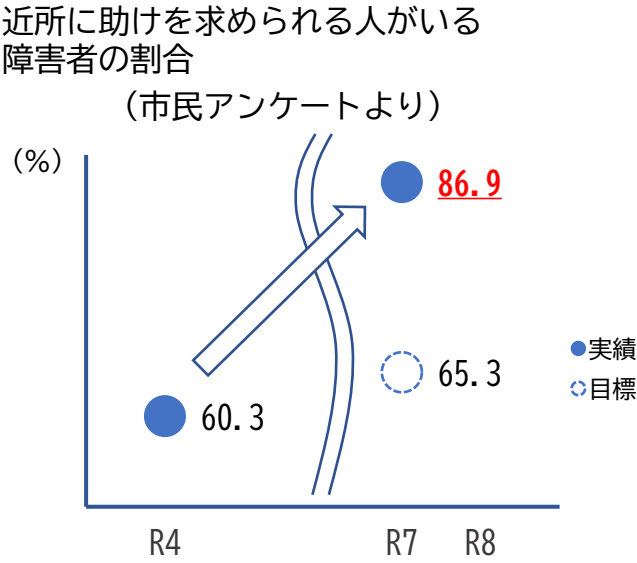
進捗評価

進捗評価			取組1については，制度改正が行われなかった令和5年度と比較しても実績値が横ばいであるため，引き続き効果的な周知方法を検討していく。 取組2は，前回調査時から実績値が微減した。主な事業においては，書類不備等による業務負担や申請者への不利益が課題として挙げられているため，申請方法を含め，自立支援医療制度に対するわかりやすい案内方法を検討していく必要がある。
◎ 良好	○ 概ね良好	△ 課題あり	

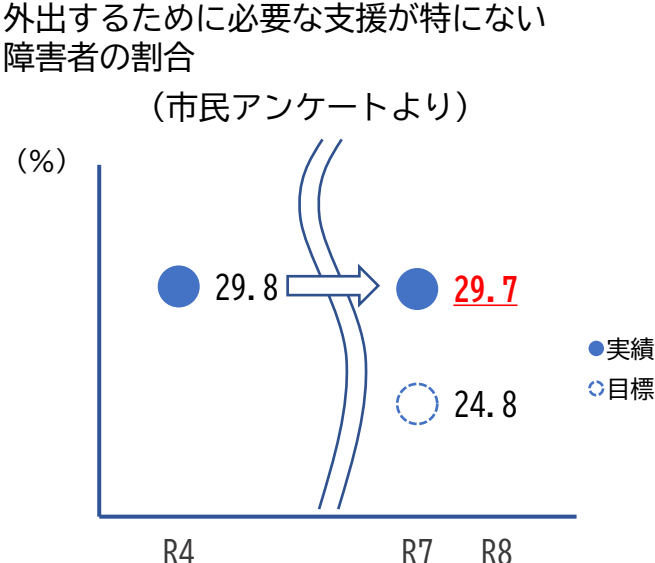
施策3 安心・安全な生活環境の整備

取組1 緊急時にも安心できる取組の強化

評価指標



取組2 安全に生活できる環境の整備



主な事業の評価

	事業名（担当課）	令和7年度 実績・課題
取組1	柏市防災福祉 K-Net (福祉政策課)	（実績）K-Net制度への理解を深めてもらうため、町会長会議やふるさと協議会の研修会などに出席し制度の周知に努めた。 また、町会への名簿提供の際には、受け取りに来た町会担当者一人ひとりに対し、制度の概要を説明することで理解促進を図った。
		（課題）町会等によって K-Net制度の理解度に差があることが課題。 引き続き制度の理解促進に努め、より多くの町会等に名簿を提供することで、支援体制の構築を図る。
取組2	「福祉のまちづくり」 基準の適合指導 (◎建築指導課) (障害福祉課)	（実績） 適合証の発行件数は1件、指導書の通知件数は20件であった。
		（課題） 「福祉のまちづくり」基準が努力義務であり、適合証取得率の向上が難しいことが課題である。

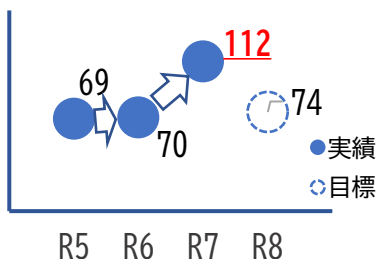
進捗評価

進捗評価			取組1は、実績値が目標値を上回る結果となった。主な事業での取組において、説明動画や地域の会合を活用し、デジタルとアナログを組み合わせることでK-net制度を周知したが、平常時における支援体制の構築に寄与したと考えられる。取組2は、横ばいで推移している状況であるため、障害者が安全に生活できる環境の整備に向けて、引き続き必要な支援の充実に努めていく。
良好	概ね良好	課題あり	

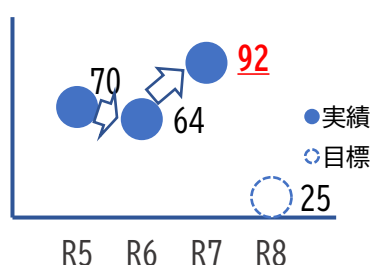
施策1 就労支援の充実【重点】

取組1 一般就労及び職場定着の促進

就労移行支援事業等を通じて一般就労に移行した人数

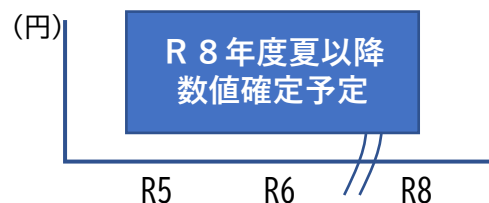


市内就労定着支援事業所における就労定着率が7割以上の事業所の割合



取組2 工賃向上の取組強化

市内障害者就労施設等の平均工賃額



評価指標

主な事業の評価

	事業名（担当課）	令和7年度 実績・課題
取組1	ジョブコーチ派遣事業（障害福祉課）	（実績）・利用者 3人 ・本人及び企業支援回数延べ21回 ・特に企業への障害特性理解促進のための支援を重点的に行い、定着促進を図った。
		（課題）派遣事業の範囲において支援できる場面の拡充を図り、利用者の就労定着を促進する。
取組1	企業向け相談会の開催（障害福祉課）	（実績）持続可能な企業へのアプローチ方法検討の必要性から、相談会開催には至らなかった。
		（課題）継続して持続可能な企業へのアプローチ方法を検討していく。
取組2	福祉施設による合同販売会の開催（障害福祉課）	（実績）ラコルタ柏フェスタへの参加、ラコルタ柏でマルシェを2回開催。 障害者就労事業振興センターと共催でイオン柏での販売会を実施。
		（課題）来場者増加につながる取組を検討していく。
取組2	柏市障害者就労施設ハンドブックの作成（障害福祉課）	（実績）福祉的就労連絡会やはたらく部会にて意見交換を行いながら作成した各事業所の紹介動画をSNS等で周知した。
		（課題）福祉的就労連絡会やはたらく部会を活用した周知方法を検討していく。

進捗評価

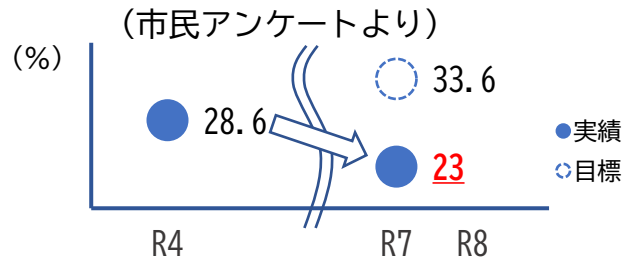
進捗評価			※取組2の評価指標の実績値は今年度夏以降に確定予定 取組1は、いずれの評価指標も実績値が既に令和8年度の目標値を上回っており、一定の成果が見られた。 主な事業の進捗状況も概ね良好であるが、企業側へのアプローチなど、一部課題も残るため、現在の事業を引き続き推進していくとともに、今回の進捗確認で見た課題の解決に向けて検討を行う。
◎ 良好	○ 概ね良好	△ 課題あり	

施策2 社会参加の促進【重点】

取組1 社会とつながる機会の充実

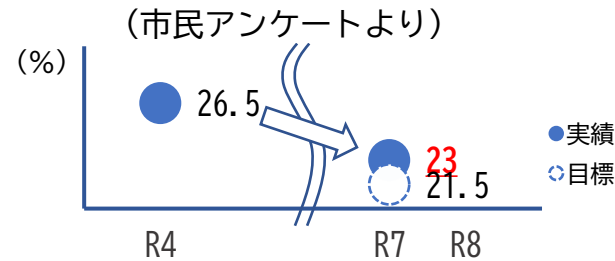
評価指標

スポーツや文化芸術，その他趣味のために外出する障害者の割合



取組2 交流・居場所づくりの促進

社会参加する，または社会参加を続けるために参加したい活動が特にない障害者の割合



主な事業の評価

	事業名 (担当課)	令和7年度 実績・課題
取組1	障害者等社会参加・就労支援事業 (障害福祉課) ※令和7年度より事業名を「障害者等社会参加・訪問支援 (アウトリーチ) 事業」に変更	(実績) 利用者数は減少した。外部環境の変化や利用者層の入れ替わりが要因と考えられる。 ・利用者延べ人数 2,006人 ・アウトリーチ 11件 ・職業体験開拓 3件 (課題) 事業内容を変更したことに伴い，アウトリーチに力を入れたが，スタッフの不調等により減少した。
	障害者等社会参加コーディネート事業 (障害福祉課)	(実績) なし (令和6年度で事業移管) (課題) —
取組2	障害者活動センター運営事業 (障害福祉課)	(実績) 活動センター利用に頭打ち感があり，目標値には届かなかった。複数の利用希望が重複する曜日・時間帯がある一方，特に平日夜間・休日の時間帯で稼働率が向上しない現状がある。 (課題) 本来は障害理解の発信拠点や障害者の居場所としての役割が期待されていることから，役割を果たすための仕組みづくりと，頭打ち感のある稼働率以外の評価方法の検討が課題。
	障害福祉関係団体への支援・ネットワーク形成 (障害福祉課)	(実績) 活動センター登録団体によるミーティングの継続的な実施によって団体間の交流が進み，障害理解イベントでのイベント共催など一定の効果が見られる。 関係団体への事業支援のための補助金事業は引き続き実施した。 (課題) ミーティングの開催も含め，市が働きかけることでネットワーク形成が進んでいるため，団体が自発的につながるような仕掛けづくりが課題である。 補助金事業は活用している団体の固定化もあり，新たな団体も活用できるよう，制度自体の見直しも含めた検討が必要である。

進捗評価

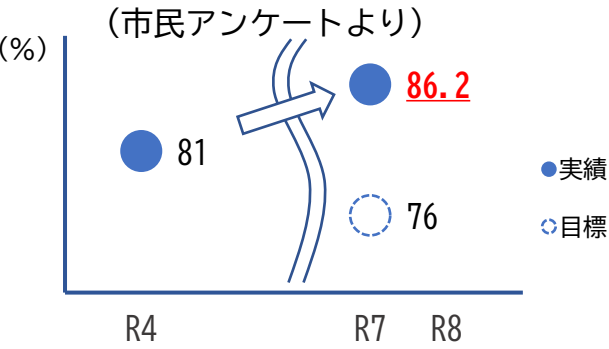
進捗評価			取組1については，実績値が減少し目標値にも達しなかった。事業運営が属人的な体制となっていることが要因の一つと考えられるため，安定的かつ継続的なアウトリーチ支援を実施できるよう，組織的な運用体制の構築・強化を検討していく必要がある。 取組2は，わずかに目標値には及ばなかったものの，一定の効果が見られた。特に主な事業にあるような，団体への働きかけを通じて社会参加の機会創出，充実を図っていく。
◎ 良好	○ 概ね良好	△ 課題あり	

施策3 共生意識の醸成と
支え合いの地域づくり

取組1 共生意識の醸成

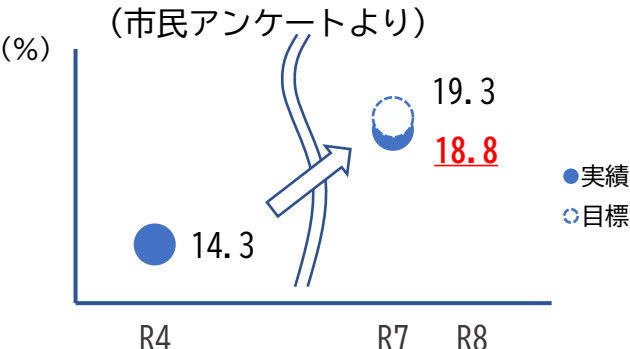
評価指標

障害者に対する偏見や差別が社会全体としてあると思うと答えた市民の割合



取組2 協働による福祉活動の促進

障害福祉や障害者に関心があり、何らかの形で行動に移している市民の割合



主な事業の評価

	事業名（担当課）	令和7年度 実績・課題
取組1	障害理解・啓発イベントの実施 （障害福祉課）	（実績）障害者週間にあわせて、障害者活動センター登録団体と協働して障害理解イベントを実施。令和7年度もラコルタ柏3階オープンスペースの活用、ボランティアセンター主催イベントの実施など、ラコルタ全館での開催を継続した。昨年度比、複数団体の共催イベントが増加しており、活動センターを中心とした取組に一定の成果が見られた。
		（課題）障害者週間に集約したイベントの他に、団体が自主的にイベントを実施できるような仕組みづくりが課題。障害理解イベントは市が一定程度全体調整をすることで実施されているため、団体の中でコーディネートができる人材を育成する方法は検討が必要。
取組2	障害者支援ボランティア養成講座の開催 （◎社会福祉協議会） （保健予防課） （障害福祉課）	（実績）過去10回の精神保健ボランティア養成講座受講者に対し案内を送付し、過去受講しながらも団体加入をしていない方を対象とした精神保健ボランティアフォロー講座を3回にわたり実施した。
		（課題）過去の講座内容を踏襲しつつ、団体の方も交えて交流を深めることが出来た。講座の申込者が8名だったが、実際に受講した方は4名、内1名は既に団体に加入しており、団体の新規加入にはつながらなかった。

進捗評価

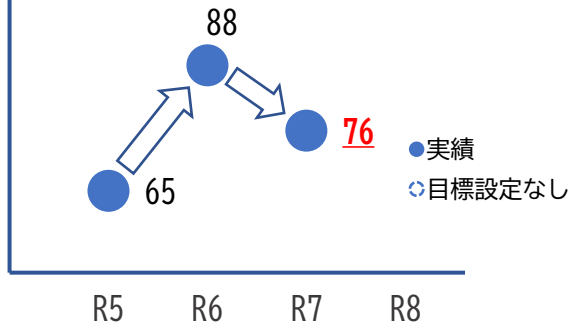
進捗評価			取組1は、前回調査時よりも実績値が増加した。アンケート調査では、特に教育機関や交通機関、勤務先において偏見、差別があると思う方が多かったため、障害理解・啓発イベントの周知拡大等により、学校や一般企業等を含めた一般市民への啓発強化に努めていく。 一方で取組2をみると、障害福祉や障害者に対する関心をもち、行動に移している割合は増加しており、事業による一定の効果が見られた。
良好	概ね良好	課題あり	

施策1 乳幼児期における支援の充実

取組1 障害の早期発見から健やかな成長のための療育支援の充実

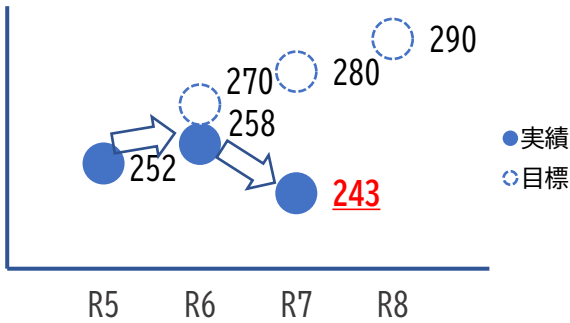
評価指標

幼児健康診査からこども発達センターの支援につながった件数
(件/年)



取組2 こども園・幼稚園・保育園等、地域で適切な支援が受けられる体制の強化

障害児等療育支援事業（巡回支援）実施の件数
(件/年)



主な事業の評価

	事業名（担当課）	令和7年度 実績・課題
取組1	児童発達支援センターの設置 （◎こども発達センター キッズルーム） （障害福祉課）	（実績）地域全体で障害児に提供する支援の質を高めることを目的に、官民の児童発達センターが連携して研修会を実施した。また、地域の発達支援に関する入口として保護者からの相談を受け付けたほか、支援者支援として、各施設への巡回支援や助言を実施した。
		（課題）児童発達支援センターに求められる4つの中核機能の整備を進めるとともに、安定的な支援体制を構築すべく、人材確保、人材育成を継続することが求められている。
取組2	障害児等療育支援事業（巡回支援） （こども発達センター）	（実績）幼稚園26件、保育園160件、こども園56件、こどもルーム1件の合計243件。巡回利用の希望は年々増加しており、巡回先アンケート結果は概ね好評である。こどもの理解と対応・保護者対応・関係機関との連携といった3つの支援を柱とした助言を行うことで園・担任のスキルアップを図った。
		（課題）巡回支援専門員は、子どもの発達を見立てる力量に加え、園の方針・特性や相談者の経験年数・立場等に配慮した助言を行うための専門性を備えているが、多様化する状況に柔軟に対応するため、さらなるスキルの深化が求められている。

進捗評価

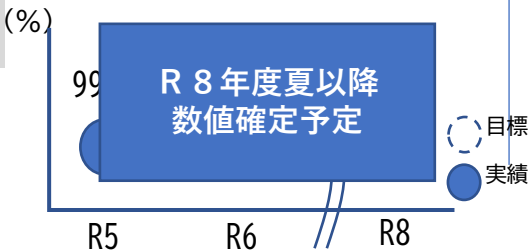
進捗評価			取組1，取組2ともに実績値が減少しており，取組2については，目標値を大きく下回る結果となった。 主な事業では，人材確保，人材育成が課題として挙げられているため，引き続き研修や巡回支援の実施により，支援者等のスキルアップを図っていく必要がある。
◎ 良好	○ 概ね良好	△ 課題あり	

施策2 学齢期における支援の充実

取組1 インクルーシブ教育システムの充実

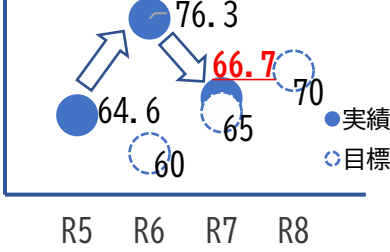
評価指標

特別支援学級在籍児童生徒及び通級による指導を受けている児童生徒における個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成率

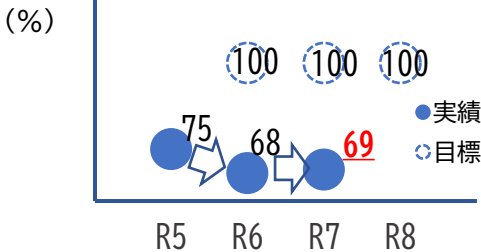


取組2 放課後や休日における居場所の充実

事業担当者会議及びこどもルーム指導員研修における研修等の受講割合（事業担当者会議）



事業担当者会議及びこどもルーム指導員研修における研修等の受講割合（こどもルーム）



主な事業の評価

	事業名（担当課）	令和7年度 実績・課題
取組1	校内支援体制（多様な学びの場）と個に応じた支援の充実（児童生徒課）	（実績）特別支援教育コーディネーター等を中心に、関係機関と連携しながら相談を進め、必要に応じて校内委員会を開いて支援の充実を図ることができた。 また、「柏市特別支援教育ガイドブック」や「柏市の特別支援教育リーフレット」を活用して校内における連携や校内委員会の充実、校内支援体制の再確認の啓発を行った。 （課題）校内連携や支援体制の更なる充実のために、管理職を中心に、全ての教職員への特別支援教育の理解・啓発推進及び研修等が必要である（通常の学級における特別な教育的ニーズに対する理解と指導力の向上、学級経営力向上、合理的配慮の提供、ユニバーサルデザインの視点をもった授業づくり等）。
取組2	事業担当者会議の運営（柏市自立支援協議会 こども部会）（◎障害福祉課）（こども発達センター）（キッズルーム） ※現在は「放課後等デイサービス連絡会」に名称変更	（実績）放課後等デイサービス連絡会（旧称：事業担当者会議）の開催状況 - 令和7年6月24日 64名参加 - 令和7年10月14日 51名参加 - 令和8年2月6日 72名参加 （課題）事業所同士の横のつながりがある体制を維持、強化するため、情報共有の機会を継続して創出する必要がある。また、地域の支援の質を高めるため、事業所の関心が高いテーマや地域課題に合わせたテーマを模索していく。

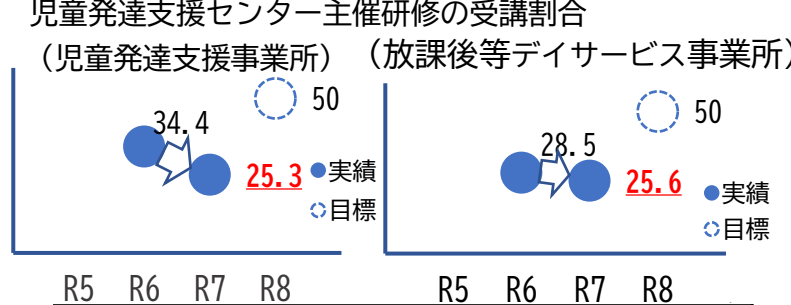
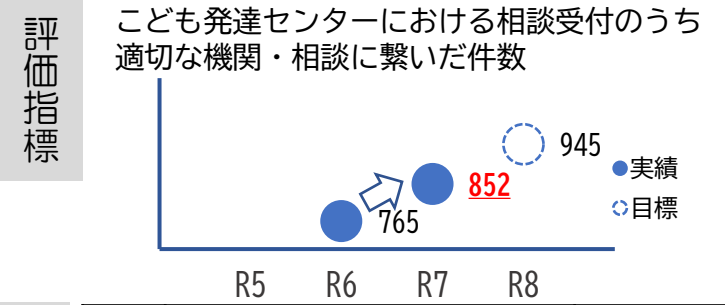
進捗評価

進捗評価			※取組1の評価指標実績値は今年度夏以降に確定する予定 取組2の評価指標実績値は、対象によってばらつきがあり、「事業担当者会議及びこどもルーム指導員研修における研修等の受講割合（こどもルーム）」については、目標値に満たなかった。 放課後等デイサービス事業所同士の横のつながりを強化するため、さらなる情報共有や研修の機会を創出していく。
◎ 良好	○ 概ね良好	△ 課題あり	

施策3 切れ目のない支援体制の構築【重点】

取組1 本人や家族を対象とした
ライフステージで途切れない支援

取組2 支援機関の連携強化による
途切れない支援



主な事業の評価

事業名 (担当課)		令和7年度 実績・課題
(新規) 取組1・2	児童発達支援センター中核機能の発揮 (こども発達センター) (キッズルーム)	(新規設定の背景) 令和6年度の児童福祉法改正により、児童発達支援センターが地域の障害児支援の中核的な役割を担う機関として位置付けられたことを踏まえ、こども発達センター・キッズルーム(児童発達支援センター)を中心に、国が示す4つの中核機能を発揮しながら柱4施策3を推進していくこととしたため(現計画策定時は(仮称)柏市子ども・若者総合支援センターの開設による推進を想定)。 (取組の実績等)「幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能」「地域の発達支援に関する入口としての相談機能」を取組1に紐づけ→こども発達センターで相談受付を実施、適切な機関・相談に繋いだ件数を取組1の評価指標に設定 ・「地域の障害児通所支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能」「地域のインクルージョン推進の中核機能」を取組2に紐づけ→地域の事業所を対象に研修を主催、受講割合を取組2の評価指標に設定
取組1	ライフサポートファイルの活用促進 (◎こども発達センター) (障害福祉課) (児童生徒課)	(実績) 昨年度課題としていた学齢児への普及啓発の一助とすべく、就学相談窓口から利用実態のヒアリングを行った。 引き続き、受給者証の新規・更新申請を行った未就学児を対象にチラシを配布(障害福祉課へ依頼)したほか、発達センター利用者についても積極的にファイルを配布し、利用をサポートすることで活用促進を図った。 (課題) 今年度実施された次期プラン策定のためのアンケートにおいて、サポートファイルの認知度は前回調査より向上したものの、依然として低調であることが判明した。特に学齢児において普及が鈍化していることから、既存ツールの活用を議論することを含めた新しいアプローチを検討していく。
取組2	柏市自立支援協議会 こども部会の運営支援(障害福祉課)	(実績) こども部会の運営状況 年3回、計99名参加 (課題) 協議内容がこども施策全般となっていることから、検討範囲が広く、関係者も多岐にわたっている。個別課題について協議を深化させるため、既存の役割や参加者の枠を超えて議論する場の設置等が求められている。
取組1・2	(仮称) 柏市子ども・若者総合支援センターの開設 (こども相談センター) ※現在は「(仮称) 柏市子ども・若者相談センター」に変更	(実績) こども相談センター内に「乳幼児担当」「学齢児担当」、令和7年度から「発達相談担当」を設置し、母子保健担当課との連携による家庭児童相談を実施した。また、就学等を含め切れ目のない支援にも取り組み、心理相談員が子育てに悩みや不安を抱える保護者に対し、子どもとの適切な関わり方の助言やペアレント・トレーニング等を実施した。 (課題) 家庭児童相談は(仮称) 柏市子ども・若者相談センター開設に伴って母子保健担当課との連携方法等の検討が必要。ペアレント・トレーニングは受講者からは好評で、対象年齢以降のプログラムへのニーズが出ている。今後、虐待予防として導入するプログラムの検討や、支援方針を決定していく上でのアセスメントのための検査実施体制の構築をしていく。

進捗評価

進捗評価			施策3については、国が示す児童発達支援センターの4つの中核機能を発揮しながら推進していくことと整理した。新設する(仮称) 柏市子ども・若者相談センターで実施する各種事業とも連携ながら、設定した評価指標の達成に向けて施策を推進する。
◎ 良好	○ 概ね良好	△ 課題あり	